夢窓幼稚園通信第15号

2018年 5月 31日

♪ なにを ゆめみて いるのかな？ あじさい ....
こんなふうに始まる歌があります。
曇り空の中で紫陽花色の花が、ほわ ほわっと咲いているのを眺めていると、ほんとうに「何を想っているの？」「何夢見てるの？」と、心の中でつぶやいてしまいそうです。
あじさいのたたずまいが そう感じさせるのか、雨降りの煙る大気のせいなのか、その両者があって思わせるのか....、
実にぴったりのポエムの一節です。

幼いとき雨降りの日が続くと、外へ遊びに出かけられずに、雨音を聴きながら何かを眺めようとするのでもなく、目の前の枝葉の動きや石にはね返る雨つぶを、ただぼんやりと見ていたり、心に浮かぶ風景を夢見ていたりの時間を過したものでした。

「雨」が、降ってくるところの「天(あめ)」と同じ言葉の響きを持っているのは、天上から与えられた恵みであるからなのでしょう。
現代の生活は、身近な人々を遥かに超えたたくさんの見知らぬ人たちの手に支えられ、普段は意識さえしていない様々な仕組によって成り立っているので、かつての時代の人々のようには、「地水火風」の働きをダイレクトには感謝をもって受けとることが少なくなったのでしょうね。

それでも確かに雨は、天からの賜りものであり、母なる大地への、人々の生活への恵みです。
そして雨は、テクノロジーが高度に発達しても、液晶画面をたえず眺めたり確認したりして生活する今の時代でも、一人ひとりの心に夢を見るひと時を、そっと与えてくれる優しい存在たちです。

人の暮しを見て天(あめ)の国の存在たちが荒ぶることがないように、雨の恵みを大切に受けとめてこの季節を過したいものです。
天空の下で人がよろこびをもって過している姿を示せるように、雨の中でいい夢を見たいと思います。

雨中傘をさして、もの発見家になってその時ならではの不思議と出会える冒険に、もう一度出かけてみようと思います。
雨宿りの機会があれば、ぼんやり空を眺めて貴重なひと時を味わってみます。

みんなが それぞれの6月をうれしく過せますように！

園長 升光 泰雄